# 長野発！エコ女らしく生きる！

05 guest

株式会社ECOMACO 代表
岡学園トータルデザインアカデミー 代表
## 岡 正子 さん

1998年、長野冬季オリンピックプログラムにてポリ乳酸繊維の衣装を発表。ファッションにエコロジーを取り入れた先駆者として国内外から注目を集め、2003年ECOMACOをスタートさせる。
2009年「ビジネス女性大賞」、2012年「Most Innovative Company of the Year」ビジネス界のオスカーといわれるスティービーアワードでグランプリの国際ビジネス大賞を日本人女性として2回受賞。
現在、岡学園トータルデザインアカデミーの校長を務める。

## エコロジーのファッション「ECOMACO」は化学反応で生まれた！

1994年38歳の時に、街づくりに興味を持って清掃工場へ足を運びました。

ビル三階建て分の大きな集積場に、たくさんのごみが捨てられていた現状を目の当たりにし、私はごみをごみステーションに持って行くけれど、後はどうなっているか知らなかったという事に、とてもショックを受けました。ファストファッションも増えてきていたその頃、着て飽きたら捨てればいい、捨てるのはカッコイイとされている時代でした。

1着を何日も何週間もかけて作る教育の世界と、デザイナーになりたかった夢、それから全く違うところでごみの現場を見て、ごみとファッションが遠い物とは思えませんでした。

私の中できっかけが重なったことで、自分でも予期しなかった化学反応が起き、エコロジーのファッション「ECOMACO」を始める事を決意しました。

## ごみと一緒に心まで捨てていませんか？

資源を奪い合う戦争がもっと拡大すると言われていた1994年に長野の清掃工場で、環境とファッションの共生をテーマにしたファッションショーを行いました。

ここ100年で爆発的に人口が増えています。1950年は25億人だった世界人口も2011年には75億人を超え、2050年には93億人を超えると言われています。それは資源の取り合いに当然行きつきます。これまで、急増する人口を支えるために天候に左右される天然繊維だけではなく、安定的に供給でき、機能的で働く女性が便利に使用できる人工的に開発された物(化学繊維)で私たちの洋服を支えている現状がありました。

ただ化学繊維の原料である石油は減ると言われています。人口がどんどん増えると、私たちは何を身にまとったらよいのでしょうか。

## サステナブル繊維を使った「ECOMACO」スタート

1996年に石油だけに頼ってきた化学繊維ではなく、とうもろこしからできているポリ乳酸繊維と出会いました。新しい繊維に挑戦し、土に還る(土に入れると天然繊維と同じように消えてなくなる)布を開発しました。そして1998年、環境をテーマとし21世紀に伝える20世紀最後の長野冬季オリンピックの文化プログラムの環境ファッションショーで、ポリ乳酸繊維のお洋服第1号を発表しました。

植物から糸を取り、布を織るところから準備し、職人さんの手を借り、素材開発をした結果、約5年がかりでサステナブルな生地を世に出す事ができました。

$CO_2$排出も少なく、エコロジー・脱石油・植物由来の素材でつくる・肌に優しくて安全。

素材につける色もできるだけ地元のものを活かし、芍薬・りんどう・菜の花、リンゴの枝などの捨てていたものから染料を作り、美しい色を作っています。

## ビジネス界のオスカーと言われるスティービーアワードを受賞

「ECOMACO」のオリジナル素材は化学繊維の部類に入っていますが、自然の植物である非可食のとうもろこしのでんぷんから作っています。2009年にはスティービーアワードビジネス女性大賞、2012年にはスティービーアワード国際ビジネス大賞Most Innovative Company of Yearで革新的な素材開発が評価され、大賞を受賞しました。この賞はビジネス界のオスカーと言われ、世界中から4,000社を超えるエントリーがあった中で受賞でき、とてもありがたい事でした。

## 徹底的に長野に向き合う　長野発！エコ女

来年度、岡学園トータルデザインアカデミーに長野プロデュース課を立ち上げます。

地方の財産＝自然・農業・食・お土産・観光などを良く知ったうえで、プロデュースし、活かすことのできる学生を育成します。地財にアイディアやデザイン、イベントを加え、トータルで揃えば地方発信ができるのではないかと思っています。

自分の根っこ=ルーツであった長野を活動の拠点とする中で、ふと気が付いた時に自分はトレンドを求めるデザイナーではなく、環境をテーマにしてやれることがないかと思うデザイナーとなっていました。

自分の身をおく場所「長野」と徹底して向き合って、地方のなにかしらのエネルギーになれないか、そして自然と向き合い・捨ててしまう物の中に次の展開の種を見つける事ができると思っています。その地域で育まれたものを組み合わせていったら、地方がとても面白く感じてきました。

自分が面白いと思うものを組み合わせていったら、自然にいきつくのではないかと思っています。みんな小さなきっかけでエコ女になれると思います。

## Q & A

Q 女性らしさを活かしている事例はありますか？

### 食の安全や見た目、ヘルシーなどの分野

A 食べても良いクレヨンなど、子どもと接し、日々の生活の中でこんなものがあったら良いのに、など細かいところに気が付く人が多い。栄養学と色をミックスしてお料理を作っている方など、ヘルシーな事も女性が強いと思います。

### 持続可能な未来に向けて働く女性に一言

エコ女が増えれば、社会が彩る。
みんなで、つながりましょう。

message

株式会社ECOMACO
住所/〒380-0936 長野県長野市岡田町96-5
TEL/026-224-5165　FAX/026-224-7744
http://www.ecomaco.com/

# 座談会 ワークライフバランスを保ちながら、環境分野で輝き続ける

06 guest

ブラザー工業株式会社
製造センター 購買部 環境法情報グループ
日置 ひとみ さん
水谷 起視子 さん
川野 絢子 さん
CSR&コミュニケーション部 コミュニケーショングループ
大倉 亜子 さん

ブラザー工業株式会社
住所/〒467-8561 愛知県名古屋市瑞穂区苗代町15-1
TEL /052-824-2511(代表) http://www.brother.co.jp/

## 環境に配慮したモノづくりと行動で、明るい未来を描く

ブラザーグループは、商品のライフサイクルの全プロセスに配慮した「環境配慮型製品」をお届けし、従業員一人ひとりが地球環境の保全に向けた取り組みをグローバルに展開しています。この取り組みを前進させるため、ブラザーグループの従業員一人ひとりは、「Brother Earth」のもと、「よりよい地球環境を、あなたとともに。」をグループの統一的なメッセージとして、さまざまな活動を加速させています。

Brother Earth

よりよい地球環境を、あなたとともに。

## ワークライフバランスを保ちながら、さまざまな分野の環境業務に従事

ブラザーグループの環境活動を推進しているグループ本社のブラザー工業は、仕事と子育ての両立をサポートする事業主として2011年に厚生労働省の「くるみん」を取得しており、2014年には「ファミリー・フレンドリー部門 厚生労働大臣優良賞」を受賞し、社長自ら「女性の活躍推進」を宣言するほど、かねてよりフレックスタイム制度をはじめ、育児休職、短時間勤務、在宅勤務など、従業員のワークライフバランスを支える制度が充実しています。これらの制度を利用することで、環境法規制対応やグリーン調達、製品の環境ラベル取得、工場の環境管理など多岐に渡る環境分野で、女性達がワークライフバランスを保ちながら、活躍を続けています。同じ職場に多くの働くママがいることで、子どもの流行の病気や、学校生活のこと、働きながら仕事を続ける上での苦労話など、いろいろな情報を共有することができ、お互いの心の助けとなっているほか、子育てや介護、仕事とのバランスの取り方やメリハリを付けた働き方などもお互いの成長につながっています。また、障がい者雇用の促進により、障がいを持つ従業員もそれぞれの適性・能力に合った職種・職場で活躍しています。

## 持続可能な未来に向けて働く女性に一言

message

地球環境への配慮も、家庭で考えれば、母親が中心になって子ども達に指導していると思います。そういった日々の母親目線の努力や心配りなどが、仕事にも反映されると思います。何事にも明るく前向きに、職場のみんなで協力してがんばっていけば、誰もが元気に活躍できると思います！

大倉 亜子さん

日置 ひとみさん

環境のお仕事は、自社だけで成り立つものではありません。女性の特性をいかして、積極的に社内外の人たちとコミュニケーションをとって人脈のネットワークを作ることが大事だと思います。そうすることで、仕事もプライベートも充実したものになると思っています。

# Q&A

## question.1

Q 従事している環境業務の中で育くんできた事、または、刺激を受けている事や、勉強になる事は？

A 私の業務は、RoHS※・REACH※（SVHC)などの製品に含有される化学物質に関する規制への適合状況をお客様に回答することと、北欧を中心に広く使われている、顧客への製品環境情報の提供フォーマットを利用して適合状況をお知らせすることです。工場における環境対応業務が正しく行われるよう、担当者への指導などもしています。（大倉）

※欧州における法規制。RoHSは電気・電子機器に含まれる有害物質使用禁止指令、REACHは、化学物質の総合的な登録・評価・認可・制限に関する規則。

A ブラザーグループがグリーン調達をするための基本となるグリーン調達基準書の作成業務を担当しています。調達基準を明確にするとともに、ブラザーグループだけではなく、取り引き先様とともに環境負荷低減活動を推進していきたいという思いを込めて作成しています。

今年からは、電機・電子4団体が共同で運営している4団体欧州化学品規制WGにも参加して、他社の環境担当者と欧州の化学品規制関連の情報交換も行っています。そのWGは女性メンバーが多く、子育てと仕事の両立方法などのお話も聞けて刺激になっています。（日置）

A 日本、カナダ、オセアニア向けの包装材データ集計や容器包装リサイクル法対応データの作成、取引先監査の合格証を作成し、各拠点へ送付する業務を担当しています。また、私は聴覚に障がいがあるため、同じ部署の皆さんに手話の理解を深めていただけるよう、部員全員が出席する会議で少し時間を借りて、普段のあいさつや感謝を伝える簡単な手話の紹介をスタートしました。

「お疲れ様です」、「おはよう」、「ありがとう」といった手話を皆さんが使ってくれるのでとても嬉しいです。（水谷）

A 水谷さんと同じ包装材に関する法対応業務のほか、化学物質データを管理するブラザー独自の「環境情報システム」の管理・運営も担当しています。取引先様や工場担当者の立場に立ってシステム改善案を提案いただける関係者の皆さまの姿勢に"At your side."を体感しています。（川野）

## question.2

Q 働く上で、乗り越えてきた苦労や、ブラザー工業の多様な働き方を支援する制度に価値を感じられた事は？

A やはり、子どもが急に病気になったときが一番大変です。仕事と育児を両立するために一番大変なのは、時間がない！ということです。現在「短時間勤務制度」や「在宅勤務制度」を活用しており、大切な時間を有効に使うことができるので、仕事も続けられています。（大倉）

A 出産するまでは、子どもがいて働く大変さを全く理解していませんでした。自分がその立場になってやっと実感しています。「短時間勤務制度」を利用させていただいていますが、「在宅勤務制度」ができて、一週間に一日ですが、始業時間から保育園のお迎えの時間ギリギリまで集中して仕事ができるようになりました。「在宅勤務制度」は、色々な働き方をサポートできるとてもいい制度だと思っています。（日置）

A 「短時間勤務制度」を利用しています。所属する部署には小さなお子さんがいるお母さんが多いので、短時間勤務に対しても理解があり、心強いです。子どもの急な病気などで休むことを考慮して、仕事を翌日に残さないように効率よく働くよう努めています。（水谷）

A 私も主人も母が専業主婦だったため、最初に苦労したのは、子育てをしながら仕事を続けることを主人に理解してもらう点でした。1歳から子どもを預けて働くことがイメージできず、2人で試行錯誤しながら仕事と家庭を両立してきました。当社の支援制度は、とても充実していて働きやすい環境であったものの、特に一昨年から始まった「在宅勤務制度」では、通勤する時間が短縮できただけでなく、時間に余裕ができたことで自分自身の気持ちにもゆとりができて、子どもたちを急かすことが減りました。（川野）

## message

障がいを持っている方は、働く上でそれを不安に思うこともあるかもしれませんが、自分はどの部分で力を発揮すれば良いかを考えて「こうして欲しい」と自分から伝えていけば、周囲もサポートしてくれると思います。「障がいを持った自分だからこそ、できることがある」という気持ちを持って欲しいです。

水谷 起視子さん

川野 絢子さん

環境分野といっても内勤的な仕事から対外的な仕事まで、色々な業務があります。その中で自分のスキルや自分の状況に合わせた業務がきっと見つかると思います。周りに振り回されず自分らしく輝ける場所を見つけてください。

# 子育てをしながら働いている経験が、管理職としての強みに

07 guest

株式会社デンソー　安全衛生環境部 環境推進室 グローバル推進課長
井上 真奈美 さん

1988年 デンソー入社 工機部
1996年 安全衛生環境部 グローバル担当
2008年 〃 $CO_2$特別プロジェクト･緑化プロジェクト担当
2016年より現職

株式会社デンソー
住所/〒448-8661 愛知県刈谷市昭和町1-1
TEL/0566-61-5658　FAX/0566-25-4525　http://www.denso.co.jp/

## 人材育成のための環境教育とそのグローバル展開に取り組む

デンソーでは2016年度に「デンソーエコビジョン2025」を発表しました。エコビジョンの作成にあたっては、私は企画事務局として参加し、2倍や1/2など分かりやすくインパクトのある目標を定めました。今後これを浸透、実行させることが大きな課題であり、各国･地域のグローバル環境スタッフと多くの議論を重ね、日本はもちろん、各国地域の事情もふまえた施策を考える日々です。

また、このエコビジョンにおいては、核となる人材を育成するための環境教育のグローバル展開が重要課題です。知識、実践･指導力、企画力、監査力において一般的な能力を修得後、デンソーならではのやり方を身に付け、学術的な議論や将来の課題形成、さらにはグローバル監査などができる人材を育成するプログラムを現在具体的に立案しています。

男性管理職の多い当社において、子育てを経験した女性管理職として強みに感じているのは、人それぞれの個性を見ながらきめ細かく人材を育成していくことです。

世界のさまざまな拠点とやり取りをしていると、アジアをはじめ多くの地域で女性が環境活動をけん引していると感じます。管理職として人材育成を行うとともに、幅広く環境の専門知識を高めながら、海外拠点の実情を把握し、さまざまな課題と向き合い、他の国の女性に負けないように頑張っていきたいと思います。

## さまざまな施策をフレキシブルに利用できることが鍵に

私は時短勤務制度を活用しました。この施策のおかげで、子どもと向き合う時間ができ、絆を深めながら、ここまで仕事を続けることができました。

当社では、これらの時短勤務の他、モバイルワーク導入や夫婦で参加できる復職準備セミナーなど女性活躍を促進するさまざまな施策が用意されています。また2014年に開催された女性活躍推進フォーラムでは、社長から直接思いや期待のメッセージが発信され、会社全体で女性活躍を後押しする姿勢を感じました。

子育てをしながら働く意欲のある女性にとって、さまざまな施策がフレキシブルに利用できるようになれば、女性もメリハリをつけて働くことができるのではないかと考えます。

## 持続可能な未来に向けて働く女性に一言

女性が働く上で大切なのは、バランスです。長期目線で夢を実現していきましょう。

message

## Q&A

Q 携わってきた仕事で、印象深いものはどのような仕事ですか？

### $CO_2$ 特別プロジェクト室での５年間

A 京都議定書が締結された時期、当社内では$CO_2$特別プロジェクト室が発足し、5年間にわたって全体事務局を任されました。そこには生産技術、渉外関係など色々な部門のスタッフが集まりました。今まで聞いたことのない用語が飛び交い、理解に時間がかかることもありましたが、一緒に取り組むことで、自分の仕事の幅の広がりを感じることができました。

今でも、そこで得た人脈と知識は会社生活の宝となっており、色々な場面で役立っています。

# 女性の力でより消費者の方に共感を得ながら、「いっしょに eco」

08 guest

花王カスタマーマーケティング株式会社 中部支社マーケティング部
MK推進チーム(環境担当)
二之湯 友子 さん

1992年入社。管理栄養士。花王ヘルスケアアドバイザーとして食品部に所属し花王食品の啓発を担当。
2009年、環境活動開始とともに、環境担当として、地域・行政・ビジネスパートナーと「いっしょにeco」をテーマに環境配慮型製品の普及啓発に向け精力的に活動している。

花王カスタマーマーケティング株式会社
住所/〒460-0003 愛知県名古屋市中区錦1-8-11
TEL/052-204-5600　FAX/052-204-5300　http://www.kao.co.jp/saiyo/cmk/

## 3つの「いっしょに eco」で社会のサステナビリティに貢献

私が所属する花王カスタマーマーケティング(株)は花王製品の販売会社です。

花王グループでは、2009年6月に環境宣言、お客さま・パートナー・社会の3つと“いっしょにeco”を発信し、地域・行政・ビジネスパートナー(流通)とともに行う環境活動を開始しました。「花王の製品は原材料の調達から、生産・物流・販売・使用・廃棄までのライフサイクル全体における環境負荷の削減」を考えたうえで開発されています。販売部門である花王カスタマーマーケティング(株)では、地域との連携を中心に、行政や、企業・ビジネスパートナーと連携して、お客さまが暮らしの中でお使いいただいている花王製品が「節水・節電」など環境対応しているものであり、自然と無理なくエコにつながっていることをお伝えしています。

## 製品の環境力に加え、女性の力でよりお客さまに共感を

当初は中部7県を私一人で担当していましたが、各県や市で環境活動の考えが少しずつ異なることがわかってきました。そこで、地域に詳しい各エリアの社員が担当したほうが、効果的かつ迅速に対応できることがわかり、現在はエリアごとにチームを作って環境活動を推進しています。

これは、より地域に密着することがエコに関心のある人を増やすことにつながるとわかったからです。

さらに、行政や企業主体の環境イベントに出展するときは、グループ会社(花王フィールドマーケティング(株))の女性メンバーに積極的に応援をお願いし、普段の暮らしのなかで花王製品を使った時のエコな点を自らの体験を通じて紹介していただくようにしています。そうすることが、お客さまの共感を得られ、環境＝“いっしょにeco”というキーワードを身近に感じていただけることもわかりました。

## Q & A

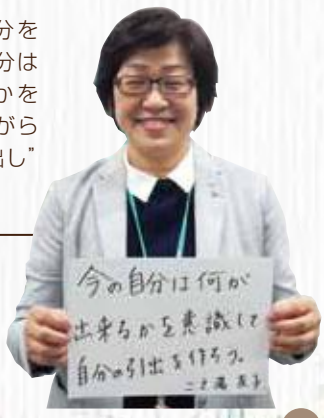
Q 女性の力を発揮しやすい職場でしょうか？

### “メリーズタイム”が次世代の女性活躍に

A 花王製品は女性が毎日のようにお使いいただく日用品が多いことから、会社には女性の活躍しやすい風土があると思います。結婚や出産などのライフイベントは、キャリアアップの時期と重なりがちです。花王では次世代の女性が活躍しやすい制度が取り入れられるようになりました。

産前産後の休職制度はもちろんのこと、子どもが1歳を過ぎた後の4月末まで育児休暇を取ることができ、さらに“メリーズタイム”と呼ばれる時間短縮勤務も、子どもが小学校1年生の4月末まで取得できます。そして、4月末まで使用できることで「小1の壁」を最小限にでき、働く女性社員にとっては大きなメリットとなっています。この制度を利用する女性社員は年々増えているので、キャリアアップを図りながら働き続けて管理職をめざしてくれればと期待しています。

## 持続可能な未来に向けて働く女性に一言

限られた時間の中でも自分を高める事はできます。今の自分は何ができるか、何をすべきかを「女性視点」で考え、楽しみながら自分だけの“オリジナル引き出し”を作りましょう！

message